

## 第2章

# 文京区の観光を取り巻く現状と課題

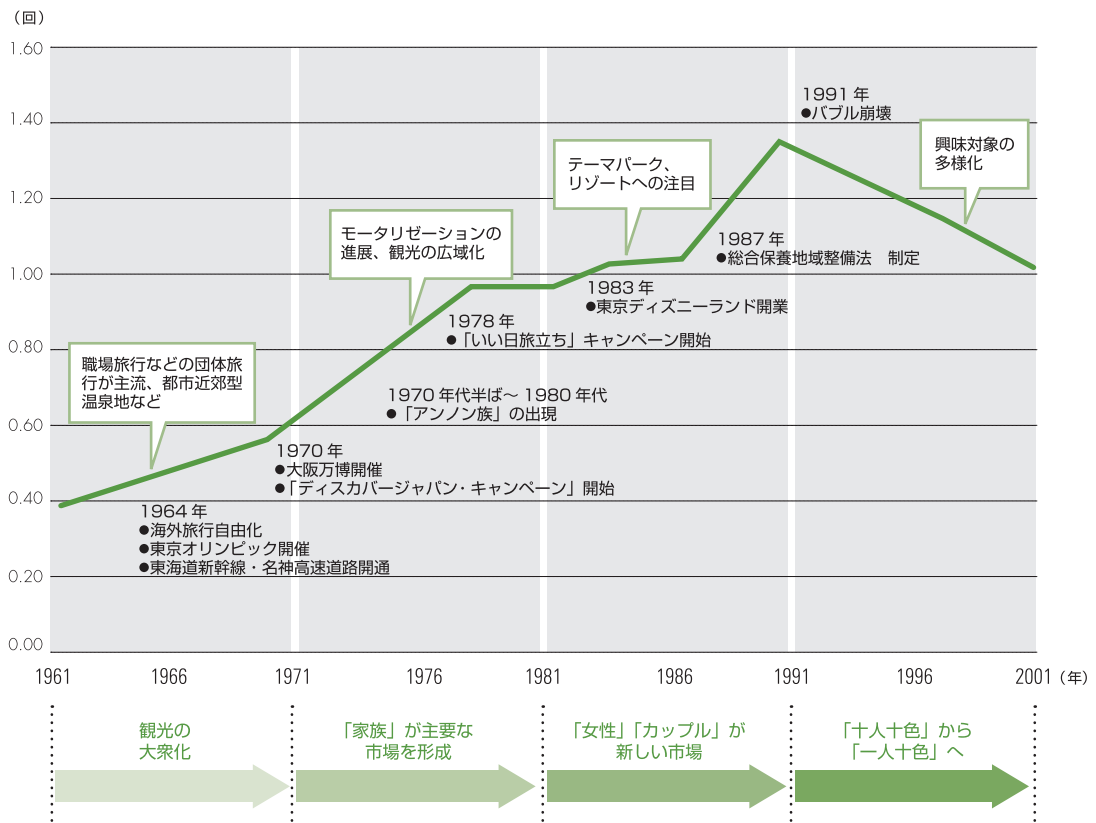
国内の観光及び文京区の観光の現状をふまえ、文京区の観光振興においてどのような取り組みが必要なのか、検討するための前提条件を整理します。

### ① 国内の観光を取り巻く現状

日本人の国内宿泊旅行は、「国民皆旅行」と呼ばれ、旅行会社の斡旋による各種団体旅行が主流を占めた時代から、世相を反映させる形で変遷してきました。職場旅行などの団体旅行は減少し、家族旅行の台頭、鉄道旅行から自動車旅行へと変化しながら、戦後の高度経済成長にあわせて国内観光は右肩上がりに成長してきました。

1990年代前半をピークとして、国内宿泊旅行は減少傾向に転じますが、この背景として、日本の社会が成熟化し、旅行以外のメニューも含めて余暇活動に対する価値観が多様化したことがあります。

図表 国内観光の需要推移と関連トピック



\*縦軸は、国内の観光を目的とした国民一人あたりの旅行回数を示す

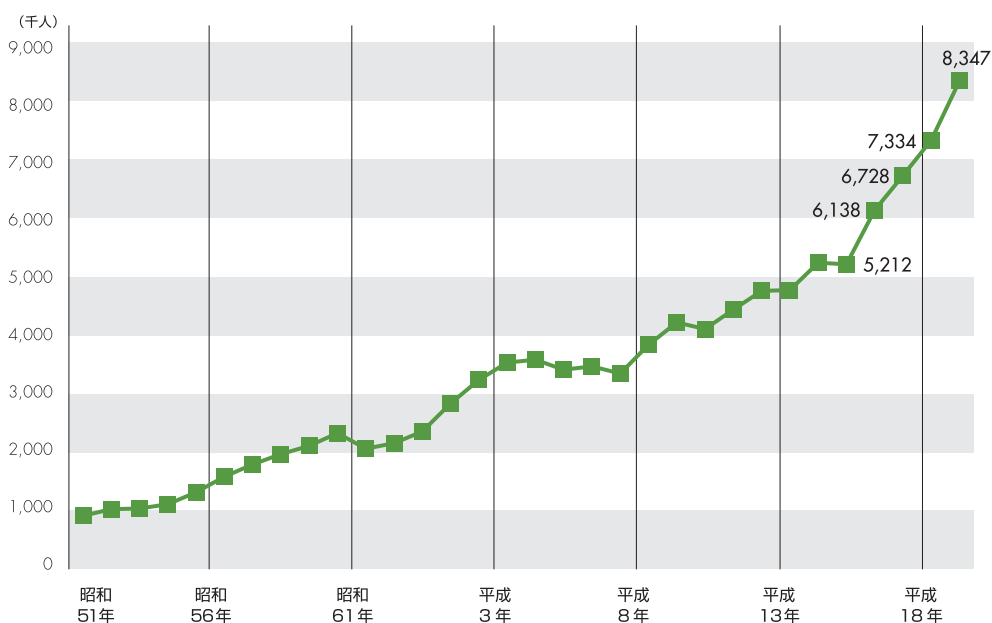
資料：国土交通省「観光レクリエーションの実態」等から（財）日本交通公社作成

一方で、「見る」ことから「体験する」ことへ観光行動の重心が次第に移るとともに、地域独自の魅力を活かした観光への注目が高まっています。近年では、長期滞在型観光、環境意識の高まりなどに伴って、エコツーリズム・グリーンツーリズム、さらには文化観光、産業観光、ヘルスツーリズムなどが「ニューツーリズム」と称されて関心を集めており、地域振興の側面でも期待されています。

社会環境は、めまぐるしく変化を遂げており、観光振興に関する取り組みもそれに対応していかなければなりません。社会の国際化や高齢化に対応して、ユニバーサルデザインを意識した受け入れ環境の整備が必須になってきています。また、情報通信技術の急速な進展に伴い、観光情報の提供手段についても高度化が進んでいます。さらに、環境への負荷軽減も、観光振興を進める上で十分に留意する必要があります。

こうした中、訪日外国人旅行者の誘致に向けた国の取り組みとして、日本の観光の魅力を情報発信するとともに、日本への魅力的な旅行商品の開発等を促す「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が推進され、平成19年訪日外国人旅行者数は、約835万人に達しました。

図表 訪日外国人旅行者の推移



資料：国際観光振興機構資料より

海外旅行は、景気などの社会情勢の影響を受けやすく、平成20年は世界経済の減速を背景に、訪日外国人旅行者の伸び率は減少しています。しかし、東アジアの経済成長に支えられたグローバル化の一層の進展に伴い、中長期的には外国人旅行者とりわけアジアからの外国人旅行者は大幅に増大することが見込まれます。

観光庁では、訪日外国人旅行者数の目標を平成22年には1,000万人、平成32年までに2,000万人と設定し、様々な取り組みを展開しており、本区においても中長期的な視点に立って、訪日外国人旅行者に対応していく必要があります。

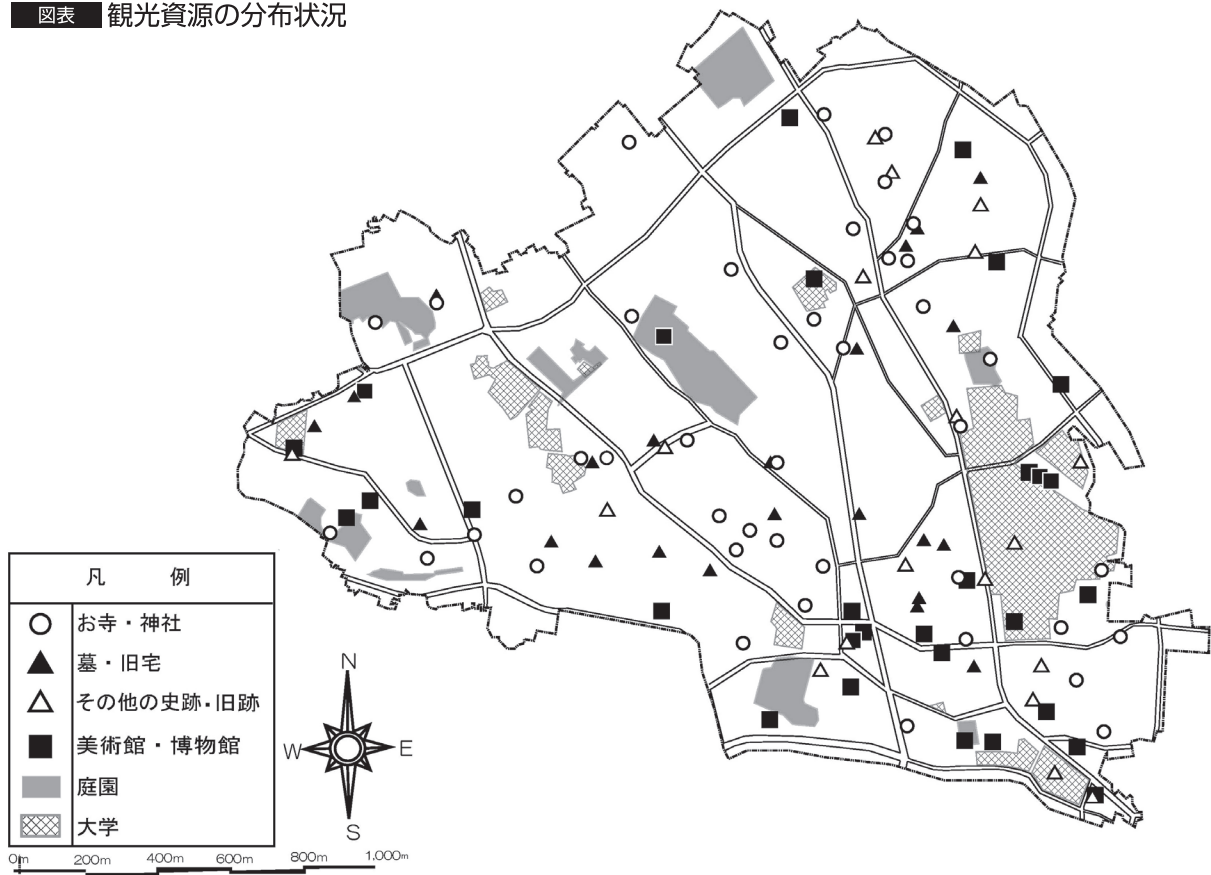
## ② 文京区の観光を取り巻く現状

### ● 文京区の観光資源に関する現状

本区は、弥生土器発掘の地である弥生町、江戸時代の武家屋敷を偲ぶ小石川後樂園や六義園などの庭園、文京の地を舞台として活躍した夏目漱石や樋口一葉などの文人に関する史跡など、歴史の重層性を感じる人文資源を中心とした観光資源が多く点在しています。さらに、区内には、大学をはじめとして多くの教育機関・研究機関があり、先端的な文化を発信するなど多様な文化を創造し続けています。

しかし、本区の資源は、まちなかにあるものが多く、案内板などを整備しているものの、一見して気づきにくいものが多くあります。人文資源は、その背後にある歴史や文化を理解することで楽しむことができますが、ひと目見ただけでは伝わりにくい資源ともいえます。これらの資源の持つ魅力について、来訪者にわかりやすく、正しく伝える必要があります。

図表 観光資源の分布状況

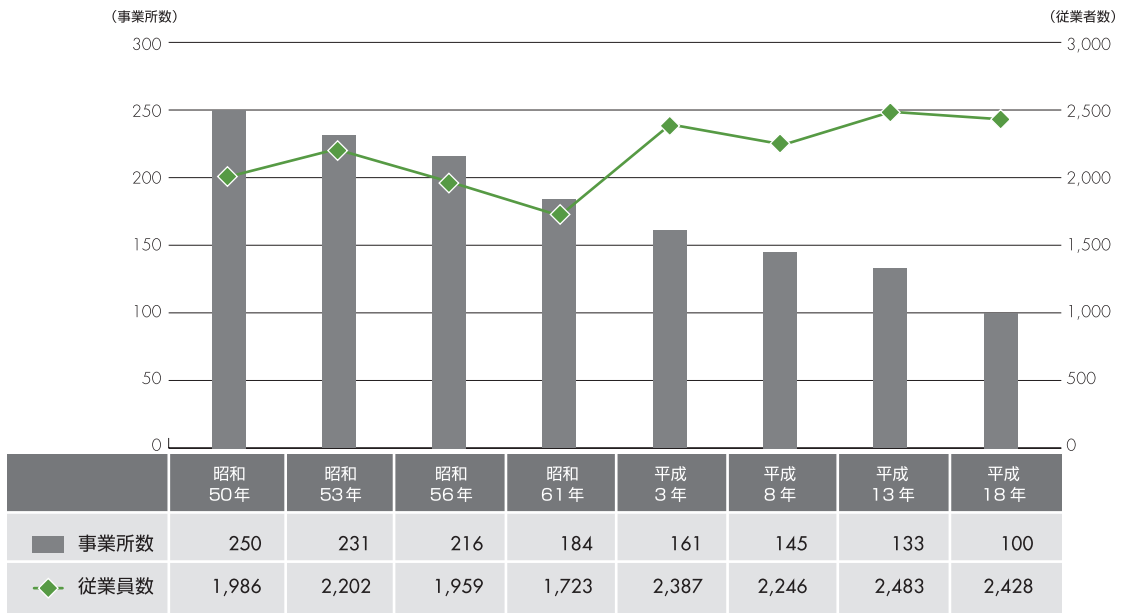


資料：文京区HPより作成

## ●文京区の観光関連業の現状

昭和30年代、本郷地区の旅館は、修学旅行の宿泊先として多くの中高生等で賑わっていました。しかし、観光のスタイルは徐々に変化し、修学旅行という団体客を主たるターゲットとしてきた本郷の旅館群は、貸しビル業などへ業種を変更するケースが見られます。

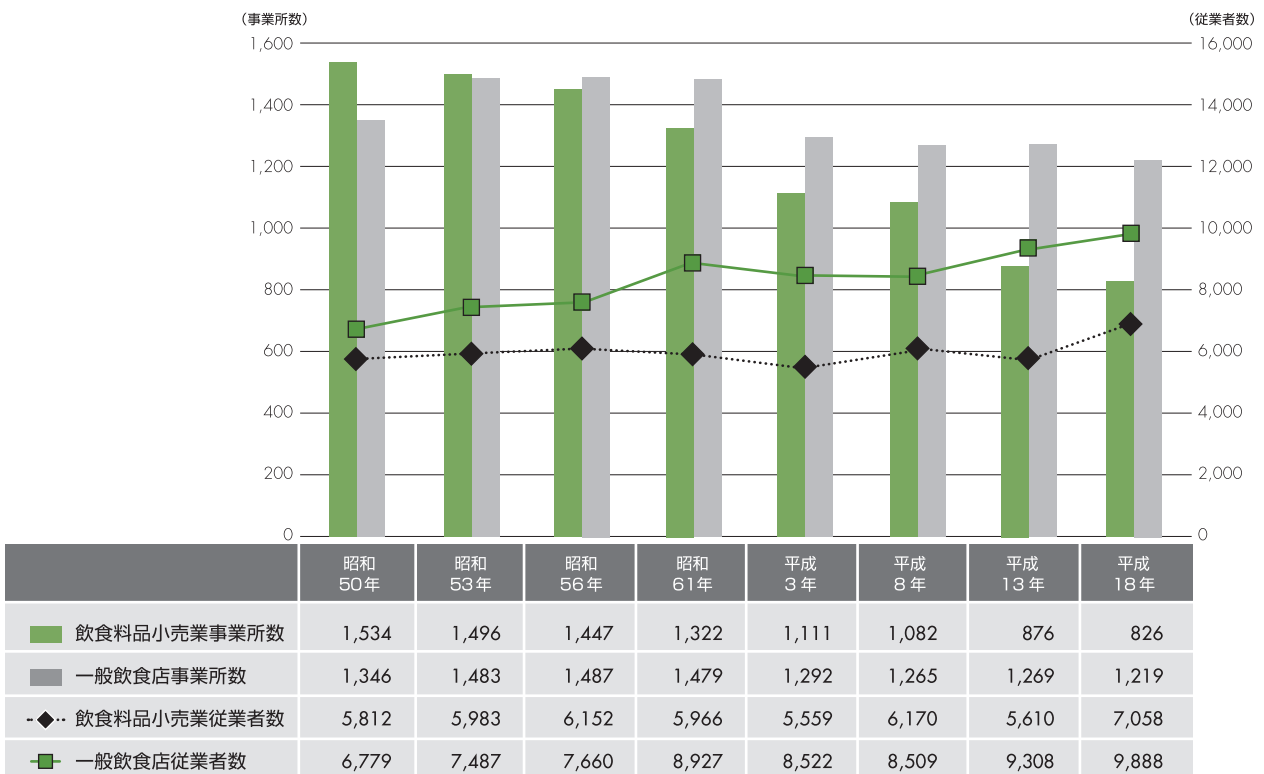
図表 旅館その他宿泊業の事業所数及び従業者数



資料：東京都総務局「事業所・企業統計調査報告」より作成

観光においては重要な要素となる「食」を提供する飲食店についても、区内の事業所は減少傾向にあります。

図表 飲食料品小売業・一般飲食店の事業所数及び従業者数



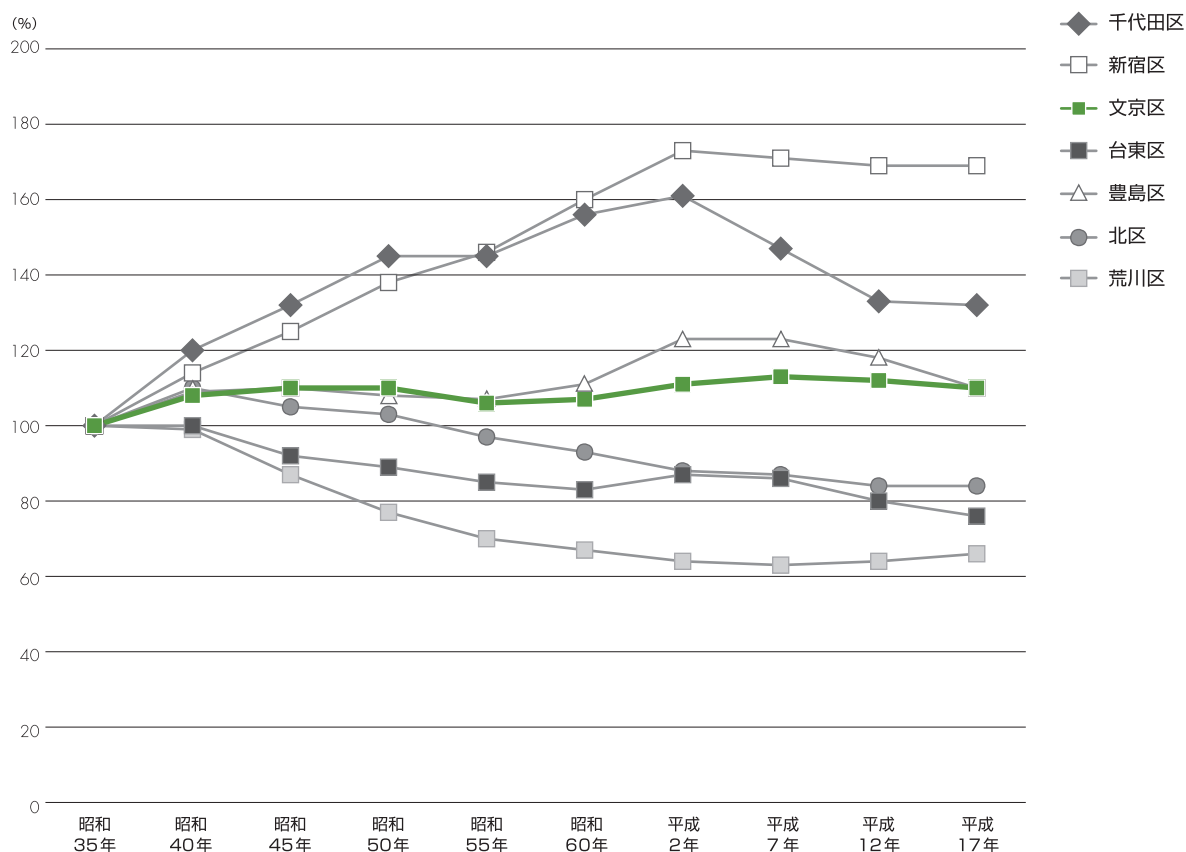
資料：東京都総務局「事業所・企業統計調査報告」より作成

## ●文京区の昼間人口に関する現状

23区の特に都心部においては、昼間人口が減少傾向にあり、本区においても下表の通り、平成7年を境に緩やかに減少しています。

大学キャンパスの区内移転など、好ましい状況もありますが、人口減少・少子高齢社会が進むことを考えると、通勤・通学者に加えてさらに広範な交流人口を得ていくことが必要です。

図表 文京区および近隣区の昼間人口の推移



(人)

	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
千代田区	645,377	771,818	854,975	934,427	936,542	1,009,291	1,036,609	949,900	855,172	853,382
新宿区	472,372	540,694	592,167	653,256	688,601	756,362	817,095	806,095	798,611	770,094
文京区	305,283	330,831	334,829	334,859	324,165	325,391	339,161	345,087	342,603	336,229
台東区	398,527	397,374	366,958	355,084	337,509	332,227	347,738	342,681	317,700	303,522
豊島区	345,000	376,273	379,004	373,548	368,817	383,925	425,691	424,002	408,802	378,475
北区	365,830	400,911	385,109	378,164	353,925	338,454	322,529	318,682	308,653	307,317
荒川区	277,452	273,680	241,822	214,572	195,086	185,355	178,567	175,354	176,358	184,021

資料：平成17年度国勢調査より作成

### ③ 文京区の観光の実態

本区の観光の実態を把握するため、平成20年6月から8月にかけて来訪者、区民（居住者）、事業所に対して文京区の観光に関する実態把握及び意識調査を行いました。

#### 【調査の概要】

◎来訪者アンケート	配布票数……3,134票(うち宿泊施設340票) 実施箇所……本郷旅館ホテル組合、文京ミュージアム・ネットワーク参加施設、 寺社仏閣等 計50施設 調査方法……留置調査と対人調査によりアンケート票を配布、 郵送にて回収 回収状況……549票(回収率17.5%)
◎区民アンケート	配布票数……2,036票 配布先……文京区に居住する区民を無作為により抽出 調査方法……郵送調査、郵送にて回収 回収状況……479票(回収率23.5%)
◎事業所アンケート	配布状況……1,465票 配布先……文京区商店街連合会加盟店、寺社仏閣、博物館、大学等 調査方法……郵送調査、郵送にて回収 回収状況……219票(回収率14.9%)

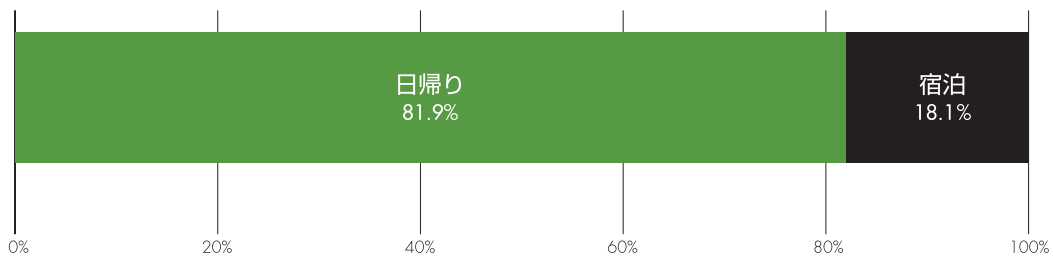
## ● 来訪者の来訪実態

来訪者は、「日帰り客」が中心となっており、約半数が3時間以内の滞在です。

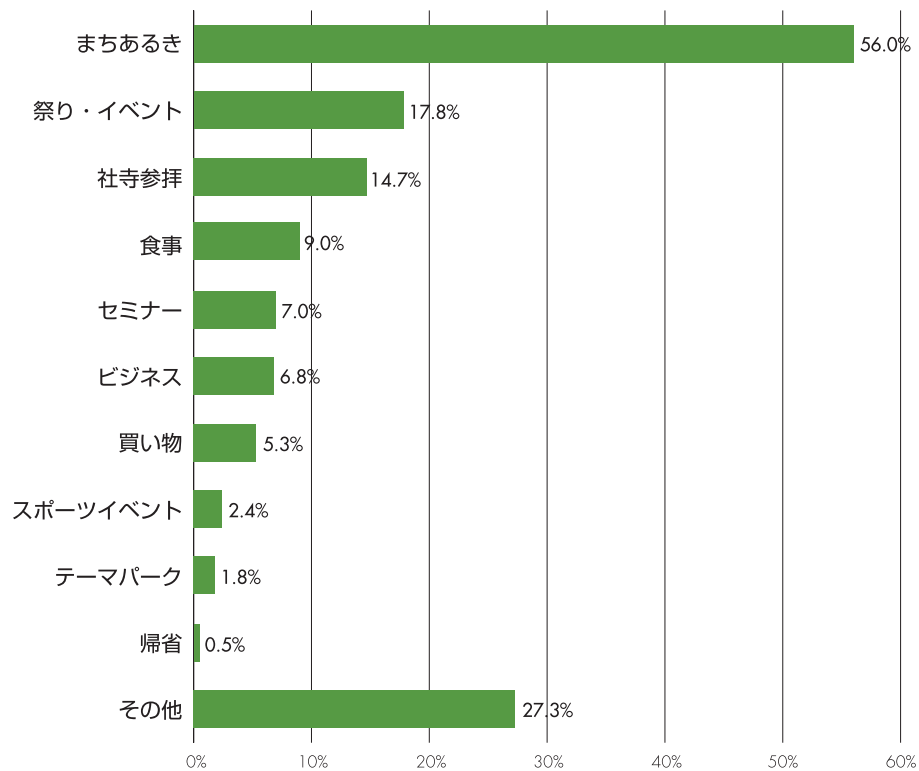
来訪者は、主に「まちあるき」を目的としており、その行き先としては「庭園」「史跡(歴史)」「美術館・博物館」が上位となりました。

来訪者は、主に「一人で」訪れており、特に「まちあるき」「社寺参拝」が目的の場合に「一人で」の来訪が多いことが特徴としてあげられます。

図表 来訪者の来訪形態 (N=474、単数回答)

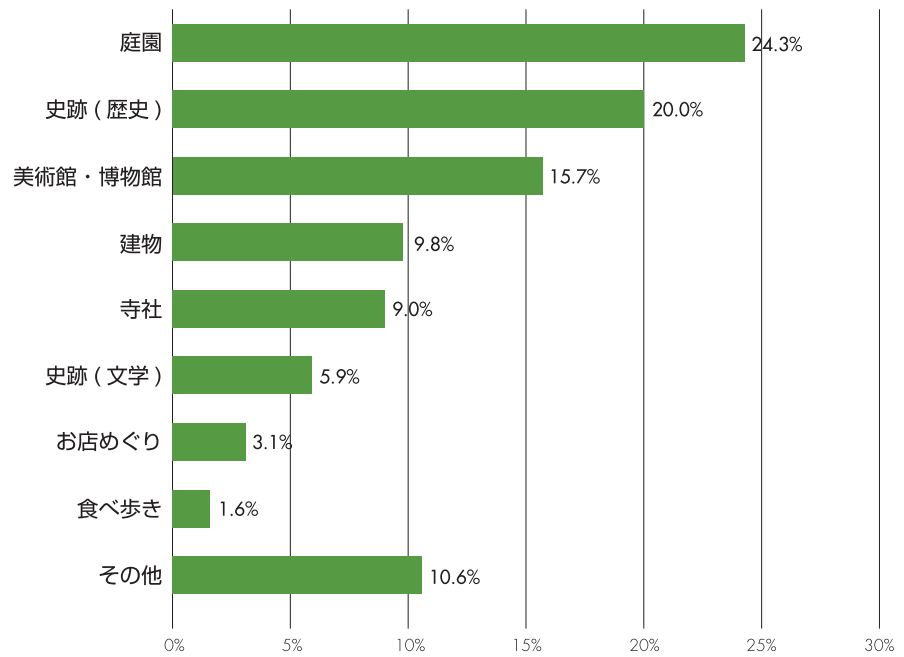


図表 訪問の主な目的 (N=546、複数回答)

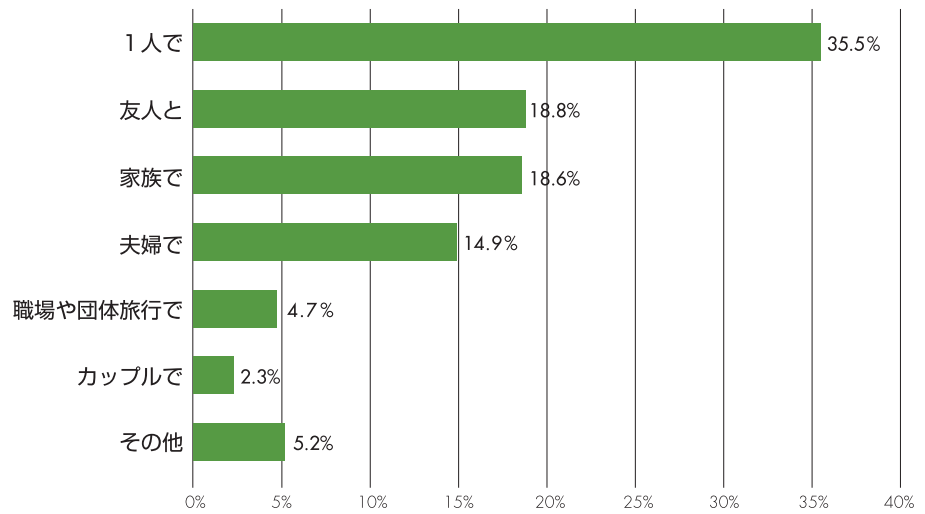




図表 まちあるきの行き先 (N=255、単数回答)



図表 同行者 (N=549、単数回答)



図表 来訪目的別の同行者

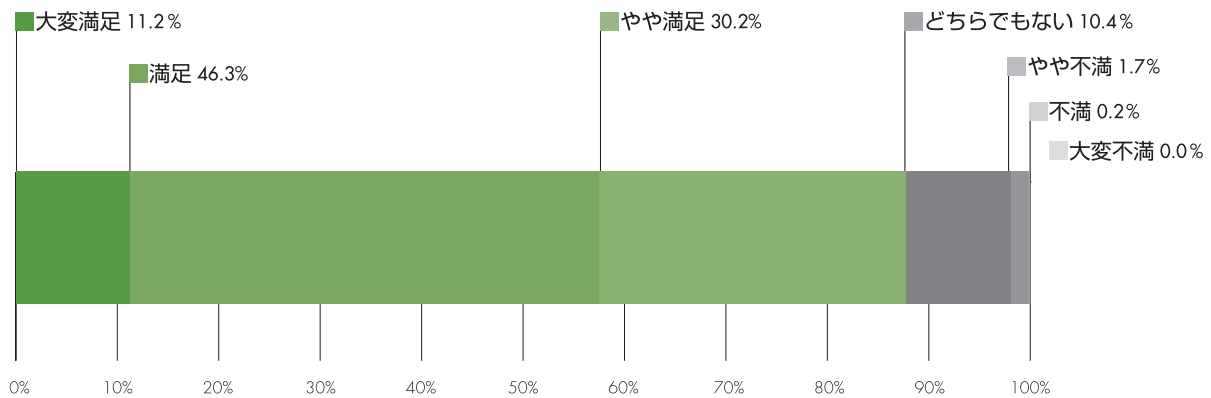
	まちあるき	社寺参拝	祭り・イベント	買い物	食事
1人で	33.3%	36.3%	28.9%	17.2%	14.3%
家族で	14.7%	8.8%	33.0%	34.5%	18.4%
夫婦で	15.7%	17.5%	14.4%	6.9%	14.3%
カップルで	3.3%	2.5%	3.1%	6.9%	4.1%
友人と	21.6%	21.3%	13.4%	17.2%	38.8%
職場や団体旅行で	1.6%	2.5%	0.0%	3.4%	4.1%
その他	4.6%	2.5%	2.1%	6.9%	4.1%
不明	5.2%	8.8%	5.2%	6.9%	2.0%
回答者(人)	306	80	97	29	49

## ● 来訪者の満足度及び再訪意向

来訪者の満足度は、「満足」が最も高く、続いて「やや満足」、「大変満足」という結果が得られました。

来訪者の再訪意向は、「そう思う」が最も高く、続いて「大変そう思う」となっています。訪問のきっかけの多くが「以前来て良かったから」という結果がでていることから、本区へ一度来訪するとリピーターとなる確率が高いと考えられます。

図表 来訪者の総合満足度 (N= 520、単数回答)

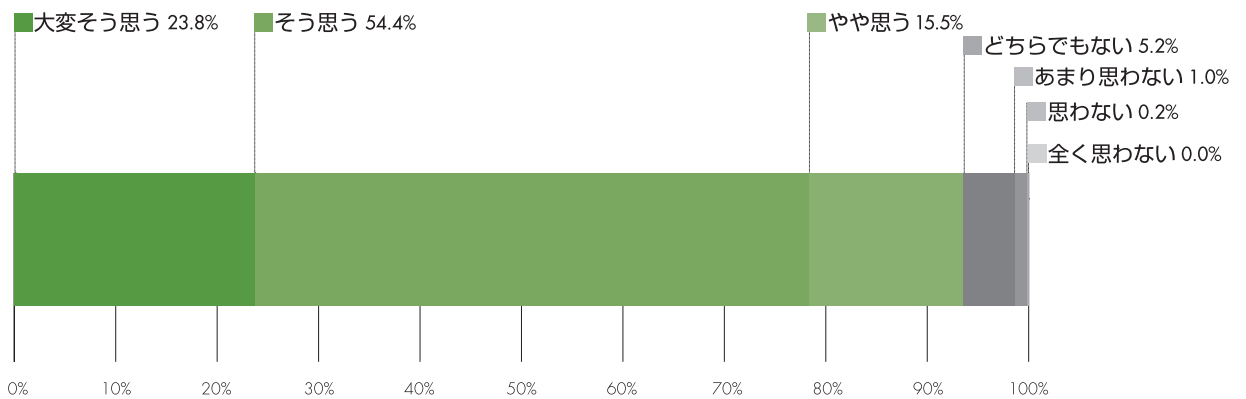


大変満足	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	大変不満
11.2%	46.3%	30.2%	10.4%	1.7%	0.2%	0.0%

図表 来訪者の個別満足度 (単数回答)

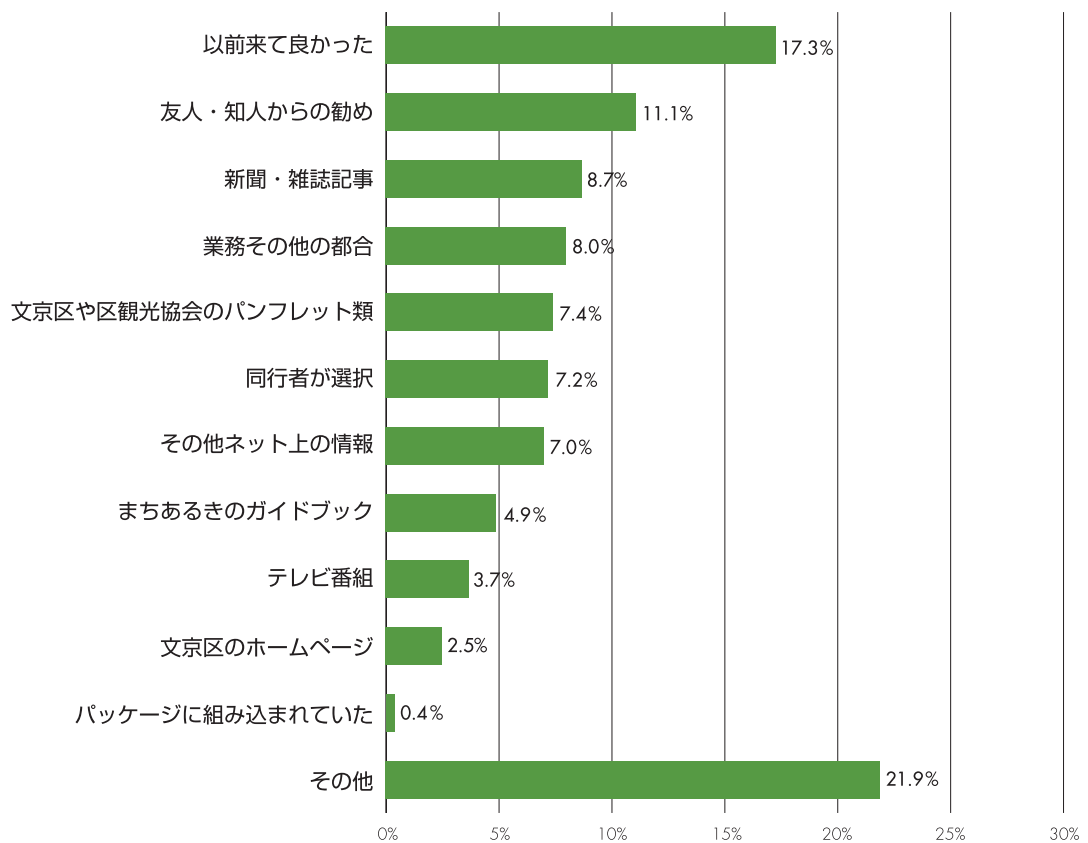
	満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	回答者(人)
景観・雰囲気	39.0%	46.8%	10.3%	2.9%	1.0%	513
宿泊施設	29.1%	29.9%	35.9%	5.1%	0.0%	117
観光・文化施設	36.9%	47.2%	14.8%	0.7%	0.4%	458
食事	19.2%	42.1%	32.3%	5.7%	0.7%	406
買い物	15.8%	32.1%	43.9%	7.3%	0.9%	330
地域内移動	22.6%	36.2%	31.1%	9.2%	0.9%	456
情報・案内	16.3%	37.4%	36.7%	8.3%	1.3%	460

図表 来訪者の再訪意向 (N=522、単数回答)



大変そう思う	そう思う	やや思う	どちらでもない	あまり思わない	思わない	全く思わない
23.8%	54.4%	15.5%	5.2%	1.0%	0.2%	0.0%

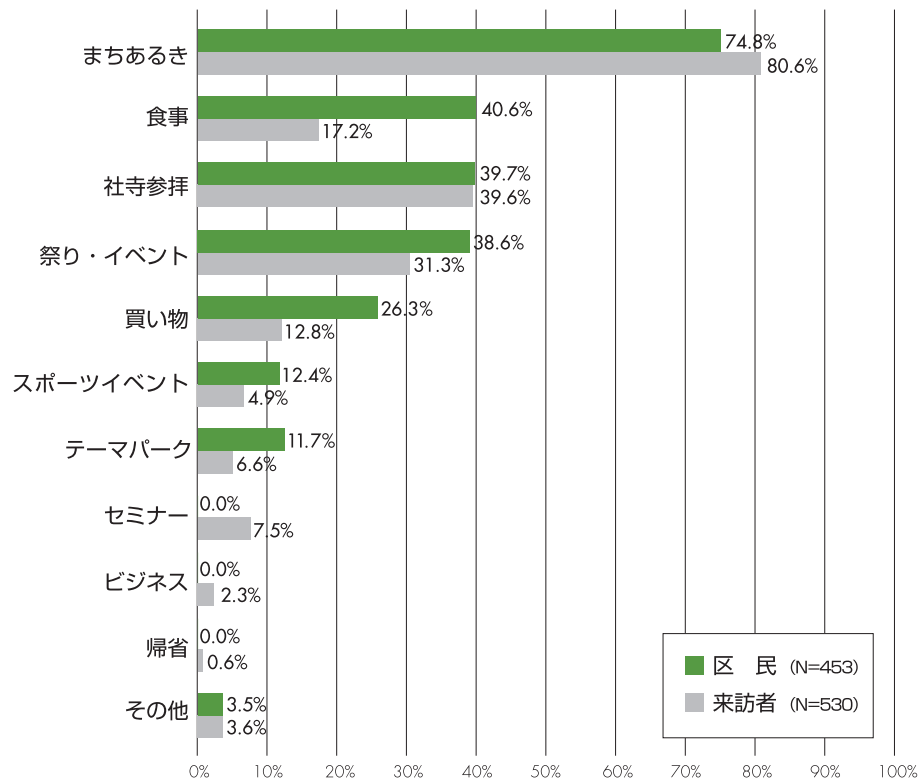
図表 訪問のきっかけ (N=515、単数回答)



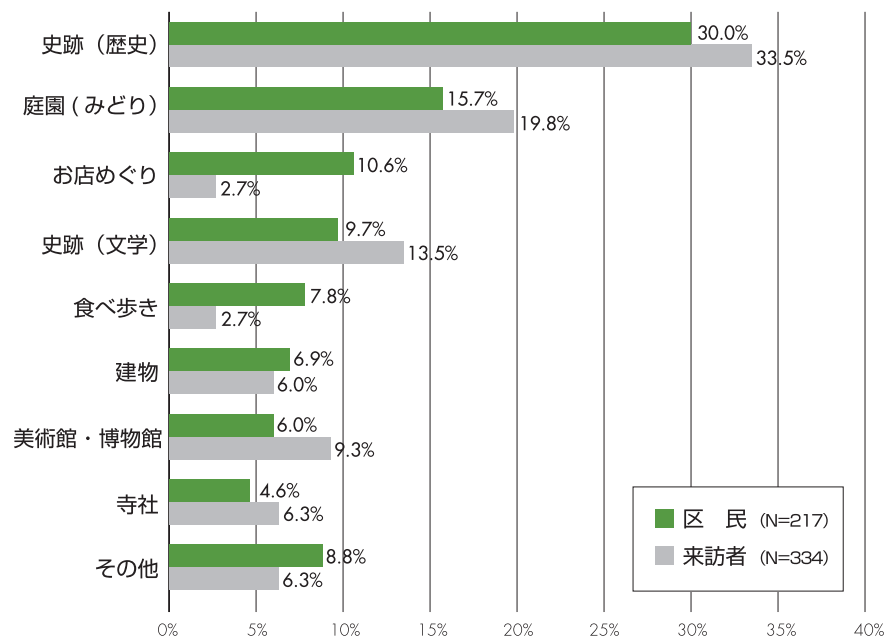
## 区民及び来訪者のニーズ

区民、来訪者ともに今後文京区で体験してみたいこととして「まちあるき」が最も多くあがっており、「まちあるき」に対するニーズは非常に大きくなっています。また、今後してみたいまちあるきでは、「歴史・文学・みどり」に対する興味が高くなっています。

図表 今後体験してみたいこと（複数回答）



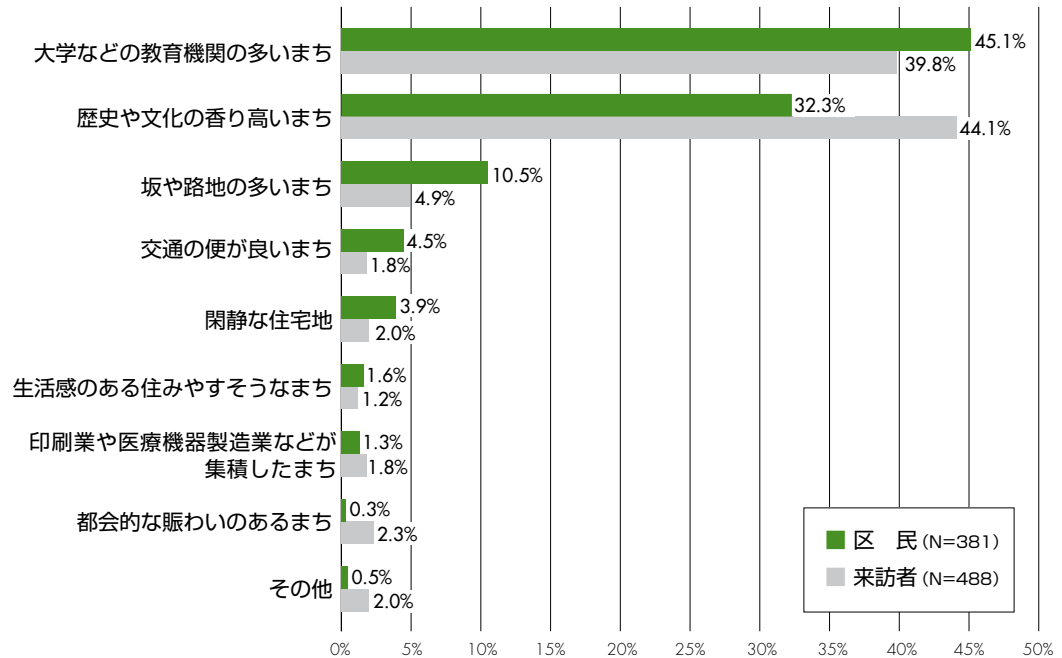
図表 今後してみたいまちあるき（単数回答）



## ●文京区のイメージ

区民、来訪者ともに「歴史・文化」「学び」に関するイメージが高くなっています。

図表 文京区のイメージについて（単数回答）

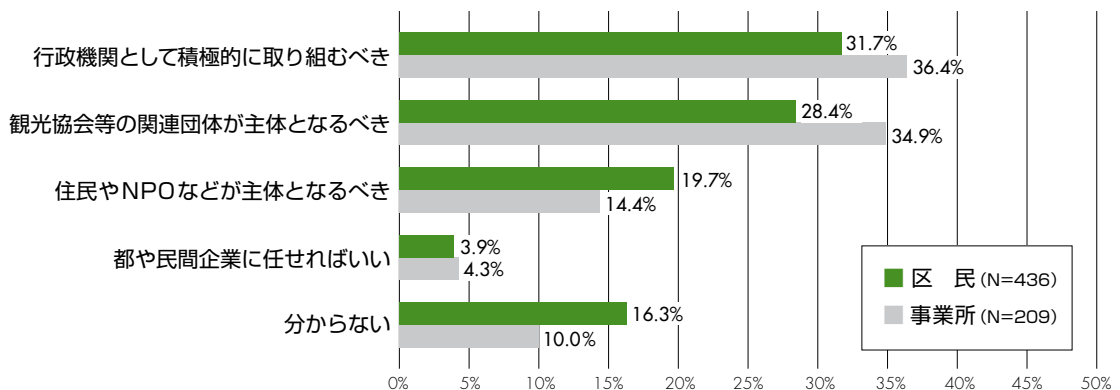


## ●区民・事業所の観光振興に関する意向

区民、事業所ともに観光振興への取り組みについては、行政機関や関連団体といった、これまでの主体が取り組むべきという回答が中心です。

一方で、「住民やNPOが主体となるべき」との意見もあり、区民主体で進める観光振興に対する意識のめばえが感じられます。

図表 観光振興への取り組みについて（単数回答）

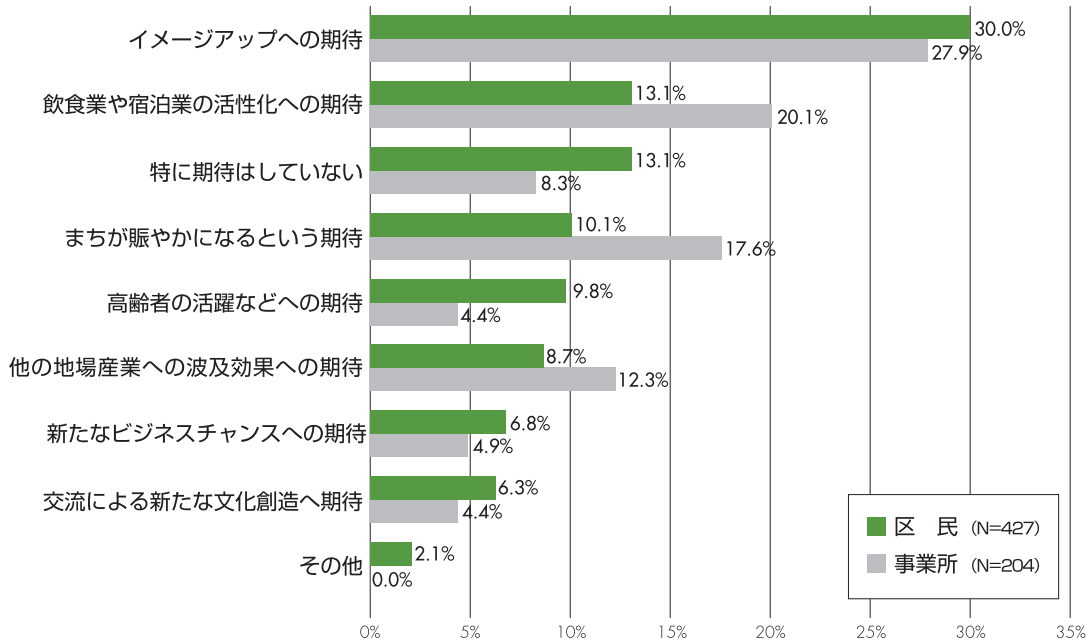


## ●区民・事業所の観光振興に対する期待と不安

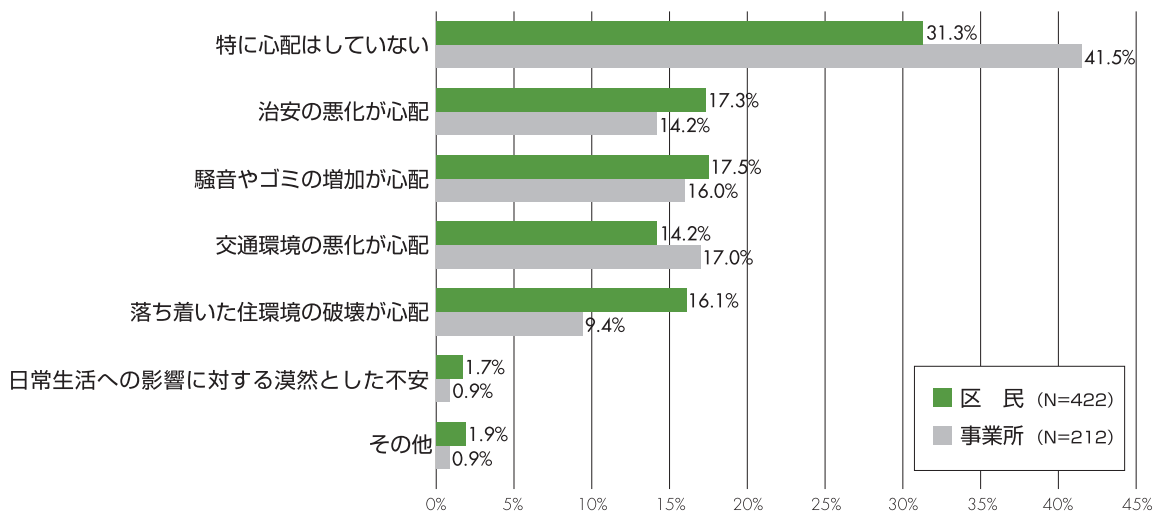
区民、事業所ともに観光振興に取り組む効果として、「文京区のイメージアップ」に期待を寄せています。

しかし、なんらかの生活環境の悪化を不安視する声が、区民から約67%、事業者から約58%あがってきていることから、区民の不安を取り除く対策が必要となっています。

図表 観光振興に期待するプラスの効果（単数回答）



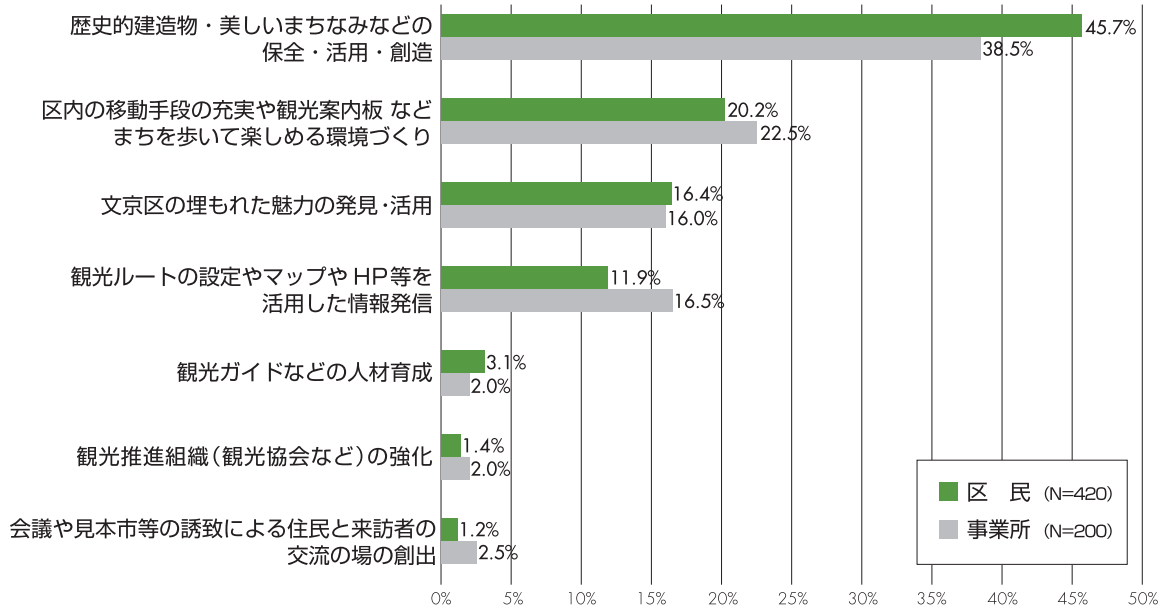
図表 観光振興に対して心配するマイナスの影響（単数回答）



●重点的に取り組むべき施策

区民、事業所ともに重点的に取り組むべき施策として、「歴史的建造物・美しいまちなみなどの保全・活用・創造」を最も多くあげています。区内の景観は、下町の雰囲気を残すまちなみ、坂道など変化に富んでいます。これらの景観は、区民、事業者にとっても本区の観光資源としての認識が高く、行政・区民・事業者が保全・活用・創造を進めていく必要があります。

図表 重点的に取り組むべき施策（単数回答）



## ④ 文京区の観光振興にむけた可能性と課題

現在の本区の観光を取り巻く現状及び実態から、観光振興に取り組む上での可能性と課題を明らかにします。

### ◎ 区内の実態からみた可能性と課題

活用できる可能性	克服すべき課題
<b>■ 文京区の観光資源</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● まちなかに歴史的・文化的観光資源が点在しており、歩いて楽しむことができる。</li><li>● 下町と山手の文化の融合地点であり、近隣区とは違う江戸文化がある。</li><li>● 下町隣接地域、都心地域、山の手地域とそれぞれに特徴ある地域からなる。</li><li>● 坂道や路地がうみだす景観は変化に富んでいる。</li><li>● 多くの教育機関が立地し、「学び」の魅力が高い。</li></ul>	<b>■ 文京区の観光資源</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 一見して気付きにくい、触れにくい資源が多く、適切な説明等がなければ十分に理解されない、楽しめない資源が多い。</li><li>● 坂道が多く、長時間歩くことが難しい。</li><li>● 文教の地であることから堅いイメージが強く、わくわく感といったエンターテインメント性が弱い。</li></ul>
<b>■ 宿泊施設・商業施設等</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 大型ホテルやビジネスホテル・旅館など多様な宿泊施設やレジャー施設がある。</li><li>● 国際的な会議やコンベンションを実施することのできる施設があり、大学では学会等が開催されている。</li></ul>	<b>■ 宿泊施設・商業施設等</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 宿泊施設の利用者や所用で訪れた来訪者をまちなかに回遊させる仕掛けが少ない。</li></ul>
<b>■ 交通</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 利便性が高い。</li></ul>	<b>■ 交通</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 交通の便が良い一方で、そのために素通りしてしまう来訪者も多い。</li><li>● 区内を横断的に移動できる交通機関が少ない。</li></ul>
<b>■ 区民・事業者</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 歴史・文化に対する意識が高い。</li><li>● 花の五大まつりなど区民の手で運営されるイベントが実施されている。</li></ul>	<b>■ 区民・事業者</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 観光振興の推進による住環境悪化に対する不安がある。</li><li>● 区民自身が区内の魅力を十分に理解していない状況もある。</li><li>● 観光関連事業者とその他事業者、地域活動団体等との連携が図れていない。</li></ul>
<b>■ 昼間人口</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 大学のキャンパス移転に伴い、学生数の増加が見込まれる。</li></ul>	<b>■ 高齢化の進行</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 施設等が十分にユニバーサルデザイン化、バリアフリー化されていない。</li></ul>
	<b>■ 外国人旅行者の増加</b> <ul style="list-style-type: none"><li>● 外国人旅行者に対応した情報提供システムが十分に整備されていない。</li></ul>



## ◎国内等の実態・動向

活用できる可能性	克服すべき課題
<p>■国内旅行・余暇時間の志向と動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●行ってみたい旅行タイプとして、「周遊観光（歴史・文化）」が根強い人気を保つ。 （「JTBF 旅行者動向」より）</li> <li>●旅行動機として「知識や教養を深めるため」は上昇傾向にある。（「JTBF 旅行者動向」より）</li> <li>●自由時間の過ごし方として「能力向上・学習」への関心が高まっている。 （「レジャー白書2007」より）</li> </ul>	<p>■余暇時間の志向と動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●余暇活動の多様化等により、国内旅行者数が減少傾向にある。</li> <li>●海外旅行を中心として、若年層の旅行離れが進んでいる。</li> </ul>
<p>■情報通信技術の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●個人レベルでも世界中に本区に関する情報を発信できる。</li> <li>●来訪者に対してリアルタイムな情報を発信することができる。</li> </ul>	<p>■定住人口・昼間人口の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国内では少子化による人口減少にともない、定住人口が減少している。</li> <li>●都心地域において、昼間人口は減少傾向にある。</li> </ul>
<p>■外国人旅行者の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国内旅行が低迷している中で、訪日外国人旅行者数は、長期的には増加傾向にある。</li> </ul>	<p>■他自治体の観光振興の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●他自治体も積極的に観光振興に取り組んでいる中、地域の魅力をより一層強く打ち出す必要がある。</li> </ul>
<p>■来訪者の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●区内で体験したいこととして「まちあるき」の意向が非常に高い。</li> <li>●文京区のイメージとして「歴史」「文化」「教育」等が既に定着している。</li> </ul>	

文京区の観光振興の取り組みを進めていく上で、可能性を最大限活用し、課題を克服していくことが必要なことから、先に示した可能性と課題を以下のように整理しました。

1 本区は、豊富な歴史・文化資源をもち、区民、来訪者ともに根強い人気があります。「歴史と文化の香り高いまち」としてのイメージが定着しており、これらを活かした取り組みを推進します。

2 地域資源が生活空間にとけ込むように点在しており、これらはじっくり歩いてこそ見つかる資源、解説により価値が高まる資源といえます。歩きながらまちの魅力を発見する「まちあるき」の施策を推進します。

3 商店街や区民が主体となって、まつりなど様々な来訪者を迎える取り組みを行っており、大学のイベントにも多くの方が訪れています。区民、事業者、教育機関など、様々な担い手が連携し、観光振興に取り組んでいるという本区の特性を活かしていきます。また、取り組みに応じて、近隣区との連携を視野に入れる必要があります。